

令和6年度 東久留米市立 下里中学校 学校評価報告書

学校教育目標	○知性を高めよう	教育ビジョン	【目指す学校像】	「生徒を大切に、鍛え、良き社会人を育成する学校」	・生徒一人一人を大切に、良さを伸ばし、生き生きと活動できる学校 ・保護者や地域から信頼され、安心して生徒を任せられる学校
	○心身を鍛えよう		【目指す児童・生徒像】	①自ら学び、考え、生き生きと活動し、表現できる生徒 ②自らを鍛え、心身ともに健康な生活ができる生徒 ③自他を大切に、尊重し合い、いじめや差別を許さない生徒	
	○広く思いやろう		【目指す教師像】	①「良き社会人」を育てるために、生徒の心を温かく理解し、厳しく指導する教師 ②一人一人が自分の強みを発揮しながら、組織として課題解決に取り組む教師 ③責任を自覚し、役割を果たすことで保護者・地域からの信頼を得るとともに、期待に応えられる教師	
前年度までの学校経営上の成果と課題	hyper-QUテストの実施と分析、及びその活用により、生徒対応や学級経営での問題点と課題を発見することができ、改善をしていく際の有効な手掛かりとなった。デジタルや情報・教育データの利活用の推進において、教員間格差が生じていた。そのため、今年度は校内研修を活用して知識や技能を深めるとともに、タブレット端末を活用した学習指導の改善やデジタルを活用した業務の効率化を進める。				

東久留米市第3次教育振興基本計画				中期経営目標	短期経営目標	評価指標・評価基準		自己評価		学校関係者評価		次年度の方策
No.	三つの柱	基本施策	今年度学校で重点を置く「具体的施策」	(令和8年度までの3年間)	(1年間)	取組指標	成果指標	取組	成果	評価	コメント	
1	I 人権尊重の精神の涵養と健やかな心と体の育成	個性を認め合う教育の涵養	いじめ問題への対応	いじめの未然防止、早期発見、早期対応・解決を図る。	全教員でいじめについての共通理解を図るとともに、定期的ないじめ対策委員会の開催により、いじめの未然防止、早期発見、早期対応・解決を図る。	・毎週1回、いじめ対策委員会を開催する。 ・生徒向け生活アンケートを年3回実施する。	・学校評価アンケートの結果 【肯定的な回答】 4: 80%以上 3: 60%以上 2: 40%以上 1: 40%未満	・いじめ対策委員会を、毎週水曜日に開催した。 ・6月・11月・2月に、アンケートを実施した。	3	3	・未然防止に向けての取組や、いじめの早期発見・早期対応への取組とともに、小さないじめを見落とさない見識を高めて欲しい。	・ホームページに掲げる「学校いじめ防止基本方針」をより実効性のあるものにする。 毎週1回いじめ対策委員会を開催し、いじめの未然防止・早期発見・早期対応に向けた共通理解を図ることで、総合的ないじめ防止対策を進める。 ・今年度と同じ時期・同じ規模で生徒向け生活アンケートを実施し、いじめの未然防止・早期発見・早期対応を行う。
2	I 人権尊重の精神の涵養と健やかな心と体の育成	個性を認め合う教育の涵養	不登校問題への対応	不登校が生じない魅力ある学校・学年・学級づくりの推進と「居場所づくり」「絆づくり」の推進を進める。	客観的な生徒の実態把握と的確な生徒理解に努める。	・4月に生徒理解研修を実施し、特別な支援を必要とする生徒の共通理解を図る。 ・7月にhyper-QUテストの実施と分析、9月に活用研修会を実施し、生徒対応や学級経営に活用する。	・生徒向けアンケートの結果 【肯定的な回答】 4: 80%以上 3: 60%以上 2: 40%以上 1: 40%未満	・4月に生徒理解研修を実施した。 ・7月にhyper-QUテストを実施し、8月に分析と活用研修会を実施した。	4	3	・hyper-QUテストの実施と分析は、来年度も引き続き継続してもらいたい。	・生徒理解研修は、今年度と同じ時期に実施し、全教職員で生徒の共通理解を図る。 ・hyper-QUテストは、今年度は各学年2回実施を計画していたが、学校の実情を考へて1回実施とする。
3	I 人権尊重の精神の涵養と健やかな心と体の育成	個性を認め合う教育の涵養	特別支援教育の充実	専門機関との連携を深め、個々の特性に合った進路指導を進める。	生徒や保護者に対し、特別支援教育への理解啓発を行う。	・週1回開催の校内委員会を起点として、けやき教室や他の専門機関との連携を促進する。 ・保護者会でけやき教室を紹介したり、別室登校経験者による「先輩の話」を聞く会を開催したりすることで、特別支援教室や新たな学び場への理解啓発を行う。	・学校評価アンケートの結果 【肯定的な回答】 4: 80%以上 3: 60%以上 2: 40%以上 1: 40%未満	・校内委員会を、毎週水曜日に開催した。 ・10月に「先輩の話」を聞く会を開催した。	3	3	・昨年度に要望した、通常学級用の「けやきだより」の発行を実現していただき、ありがとうございます。	・「先輩の話」を聞く会」の講演者に社会人となった卒業生を含めたことは、在校生の保護者にも大変喜ばれた。可能であれば、来年度も社会人となった卒業生にも依頼をする。
4	I 人権尊重の精神の涵養と健やかな心と体の育成	規範意識や他人を思いやる心を育む教育の推進	道徳教育の充実	自分も相手も大切にしようとする意識、態度を育成する。	社会の一員としての規範意識の育成と、「伸び伸び さわやか 下里中」の実践を進める。	・全教員による授業規律の徹底(チャイム始業・終業、号令による挨拶)を行う。 ・生徒会主催のあいさつ運動を実施する。	・学校評価アンケートの結果 【肯定的な回答】 4: 80%以上 3: 60%以上 2: 40%以上 1: 40%未満	・委員会活動を活発にし、授業規律を徹底させた。 ・生徒会が中心となって挨拶運動を進めた。	4	4	・あいさつ運動は、生徒会だけでなく部活動単位でも参加を検討してもらいたい。	・生徒の委員会活動に働きかけながら授業規律や時間を意識した学校生活の心がけさせる。 ・あいさつ運動は継続していく。
5	II 人生を切り拓き、社会を創る確かな学力の育成	確かな学力の育成	個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実	授業のユニバーサルデザイン化を進めるとともに、ICTの効果的な活用方法を全教員で模索し、実践する。	全教員が授業のユニバーサルデザイン化の意義を理解し、授業実践に取り組むとともに、タブレット端末やICT機器の効果的な活用を進める。	・校内研修として、小グループでの一人1回の研究授業と相互授業参観を実施する。 ・共通の授業の流れとして、「ねらいの提示→展開→振り返り→まとめ」を実践する。 ・生徒向け授業評価アンケートの実施と振り返りを行い、授業改善を図る。	・生徒向け授業評価アンケートの結果 【肯定的な回答】 4: 90%以上 3: 70%以上 2: 50%以上 1: 50%未満	・5つのグループに分けて実施した。 ・実践の成果を、生徒向けアンケートで把握した。 ・1・2学期に授業アンケート、2学期に教育活動アンケートを実施した。	4	3.5	・教員の授業力向上に向けた取組は、ぜひ毎年実施してもらいたい。 ・タブレットPCの活用を、さらに進めてほしい。	・授業のユニバーサルデザイン化を常に教員が意識し、全ての生徒にとって分かりやすい授業づくりを進める。 ・全員研修で授業参観を実施することは困難であったが、小グループに分け、参観月間を設定したことで可能となった。この方法を取り入れながら来年度も企画実施を行う。 ・授業アンケートや教育活動アンケートは、来年度も実施をする。
6	II 人生を切り拓き、社会を創る確かな学力の育成	国際社会の担い手を育む教育の推進	グローバルに活躍できる人材の育成	全教育活動において言語活動を充実させ、自分の考えを表現できる力を身に付けさせる。	授業の中で話し合い活動を効果的に取り入れ、豊かな表現力と伝え合う力を育てる。	・全教科において言語活動を取り入れた授業を実施する。 ・総合的な学習の時間の授業で、取組の成果を発表させる。	・学校評価アンケートと生徒アンケートの結果 【肯定的な回答】 4: 80%以上 3: 60%以上 2: 40%以上 1: 40%未満	・様々な話し合いの形態を取り入れた。 ・主に行事のまとめで言語活動の機会を設定した。	3	3	・言語活動を取り入れた班活動での授業では、担当する役割が発表の準備だけという生徒は少なく、一人一人に発表する機会が与えられるような場にもしてもらいたい。	・学校の教育活動全体を通して、生徒に経験や体験をさせたり考えさせたりする機会をより多く設定する。 ・言語活動や多様な表現活動を取り入れていく中で、生徒の学習意欲を高めたり思考力を深めたりしていく。
7	II 人生を切り拓き、社会を創る確かな学力の育成	国際社会の担い手を育む教育の推進	地域と連携した教育の推進	学校内外でのボランティア活動を充実させ、自主自立と地域貢献の精神の醸成を図る。	「学校主催ボランティア」「生徒会主催ボランティア」「地域行事ボランティア」等に積極的に参加する。	・「下里中 中庭プロジェクト」「朝の地域清掃」「地域の夏祭り」等に積極的に参加し、協力をする。	・ボランティア活動への参加状況 【1回でも参加】 4: 80%以上 3: 60%以上 2: 40%以上 1: 40%未満	・4名を担当に位置付け、年間計画に沿って芝と花壇の管理を行った。	3	3	・昨年度の要望であった具体的な活動日の周知については、少し進展が図られたと思う。更に連携が図られ、情報が早く伝わるとありがたい。	・複数名の担当教員の中で、中心(リーダー)となる教員を明確にして保護者や地域リーダーに周知する。 ・生徒には、活動の趣旨をしっかりと理解させてから参加をさせる。 ・計画した時間内で終了する活動となるように準備を進める。
8	III 時代の要請にこたえる信頼される学校づくり	持続可能な指導体制の整備	組織体としての学校機能の強化	学校評価に基づく教育活動の工夫・精選を行う。	学校の教育活動に関する情報発信を充実させる。	・学校ホームページの随時更新や、学校だより・学年だよりの計画的な発行により、教育活動の様子を広く保護者・地域に発信する。 ・行事ごとに生徒・保護者・教員にアンケートを実施し、教育活動の活性化を推進する。	・学校評価アンケートの結果 【肯定的な回答】 4: 80%以上 3: 60%以上 2: 40%以上 1: 40%未満	・各媒体により、定期的に学校の様子を発信した。 ・アンケート結果は、学校改善に役立てるとともに学校だよりに掲載して周知した。	3	3.5	・Fomsを利用したアンケートの実施は、作業時間の削減にはなるが、提出状況が悪いと正確な情報分析とならない。実施方法の再検討が必要である。	・学校の様子の発信は、今年度と同規模で実施する。 ・アンケートの取り方については、課題として再検討を行う。
9	III 時代の要請にこたえる信頼される学校づくり	児童・生徒の安全の確保	地域や保護者と連携した防災教育の推進	生徒の健全育成の活性化と充実を図る。	地域社会との連携による安全教育を進める。	・地域人材を活用したセーフティ教室や救急救命講習をとおして命の大切さを学ぶとともに、生命尊重の精神を育む。	・学校評価アンケートの結果 【肯定的な回答】 4: 80%以上 3: 60%以上 2: 40%以上 1: 40%未満	・薬物乱用防止教室、スマホ安全教室、救命救急講習等を、地域人材を活用して開催した。	4	3	・学校全体や学年で様々な企画を設定していただき感謝しています。ネットトラブルについては保護者も参加できる企画を設定してもらいたい。	・従来からの地域と連携した取組に加え、学校や生徒の課題を地域とともに捉えて新たな交流や学びの機会に発展させていく。 ・活動の様子は、ホームページ・各種たより等で紹介をする。